書評

メイヨー・クリニック「アルツハイマー病」

著者　メイヨー・クリニック　訳者　諸治　隆嗣

医療法人西病院　西　信博

メイヨー・クリニックは、アメリカ医学を代表する総合医療機関である。その活動の一環として、多くの図書を出版している。

本書はロナルド・ピーターセン博士が、アルツハイマー病についての最近の知見をまとめて、2002年に出版したもので、このたび精神神経薬理学の専門家である諸治隆嗣博士（北大医学部・昭和35年卒）によって、邦訳・発行された。

第1部「老化と認知症」では、人口の高齢化につれて、アルツハイマー病が激増すること、医療費が増大することを示している。さらに多くのイラストなどを使って、脳の構造、機能を解説し、正常な老化とアルツハイマー病の違いについて簡潔に触れている。

第2部「アルツハイマー病を理解する」では、アルツハイマー病の、原因、診断、遺伝について、最近の知見を紹介し、ことに早期診断の重要性を強調している。

第3部「アルツハイマー病を治療する」では、アルツハイマー病の薬物療法として、病期や症状に応じて、アリセプトなどのコリンエステラーゼ阻害薬をはじめ、抗精神病薬、抗不安薬、抗うつ薬などを、使い分けること、パーソナルケアとチーム医療の必要性を記載している。なお治療の新しい流れとして、インフォームドコンセントのもとで、厳密な臨床試験が行われ、プレドニソンや非ステロイド系抗炎症薬、エストロゲン、ビタミンEなどの抗酸化薬、銀杏、神経成長因子、抗アミロイド治療、ワクチン、プロテアーゼ阻害薬など、世界の最先端で、精力的に研究されていることを紹介している。

第4部「アルツハイマー病の介護」では、アルツハイマー病の告知、介護者になる時の決断、家庭での生活と家族の協力、法的責任、情報収集の必要などを記載している。ことに介護者が健康であること、孤立しないこと、遠慮なく周囲に協力を依頼することなどを強調している。症状が悪化するにつれて、患者の日常生活での支障があらわれ、長期の介護計画が必要になる。在宅介護サービス、高齢者ケアプログラム、代替住居、ナーシングホーム、ホスピスなどの利用法が解説されている。

第3部と第4部の間に「介護者のためのクイックガイド」が設けられ、専門家以外の家族や介護者を対象に、アルツハイマー病の介護の時にであう、多種多様な問題について、懇切丁寧に解説している。また介護の支えになる相談機関として、アルツハイマー病協会など多くの団体が、メールアドレスつきで紹介されている。さらにアルツハイマー病の治療・介護の時の、医療保険、メディケア、メディケイドなどの利用の要領についても触れ、その中でアメリカの医療・介護の実態をうかがい知ることができる。

アメリカの医療は、メイヨー・クリニックなどを頂点に、世界の最先端を走っている。その一方でアメリカは公的医療保険、介護保険もなく、無保険者の多い国でもある。

現在アメリカのアルツハイマー病患者は、400万人を数え、今後50年で4倍になるとみられ、その対策が急務とされている。

本書はアルツハイマー病の最先端の医療・介護の要点を、簡潔に記載しており、アルツハイマー病にかかわっている、医師、看護者、介護者、さらに福祉関係者にとっても、必読の書として紹介する。

発行所　株式会社法研　☎03－3562－7671
定価・本体2,500円＋税